

学力向上に向けた取り組み

○学力向上支援事業費 1,250万8,021円

質 疑 この事業の実施状況および成果は。

答 弁 読解力向上ワークシートを活用して、読解力の向上に努めている。また、学力向上支援員が4名おり、学校へ訪問し、教員の指導に当たっている。学力の向上は、本市の重点項目に挙げており、本年度の全国学力・学習状況調査の指標は、小学校が全国平均を上回り、中学校も全国平均に近づいてきている。まだ十分ではないが、少しずつ成果が出てきていると認識している。

不登校児童の支援を充実

○不登校対策推進事業費 1,664万4,815円

質 疑 この事業の実施状況および成果は。

答 弁 現在、小学校10校に不登校児童生徒が通う「校内教育支援センター（ほっとルーム）」を鈴鹿市独自で設置している。これにより、継続的に不登校状態にある子どもたちのうち、おおむね6割から7割は、欠席日数が減り、出席が増えている。中には通常学級に復帰できる子どもたちも出てきている。また、不登校支援については早期対応が重要であるため、初期対応マニュアルを作成し、学校に配布して、学校が不登校や長期欠席になりそうな子どもたちを認知した場合には、連続欠席3日以内に対応するようにしている。

質 疑 予算額と比較して決算額が減額となった理由は。

答 弁 ほっとルームでは、担当者を10名配置しているが、外部から探すのは難しい状況である。そこで、スクールライフサポーターという不登校児童の登校支援を担うパートタイム会計年度任用職員の中で、教員免許を持っている方にほっとルームの対応をお願いしたところ、兼ねていただける方が複数名出てきたことなどにより、不登校対策事業費に計上したほっとルームやスクールライフサポーターの人件費などが未執行になったため。



ほっとルーム